

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都女子大学
設置者名	学校法人京都女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	国文学科／日本語日本文学科	夜・通信	67	0	0	67	13	—
	英文学科／英語文化コミュニケーション学科	夜・通信			0	67	13	—
	史学科／歴史学科	夜・通信			0	67	13	—
発達教育学部	教育学科	夜・通信	66	0	0	66	13	—
心理共生学部	心理共生学科	夜・通信	64	0	0	64	13	—
家政学部	食物栄養学科	夜・通信	62	0	0	62	13	—
	生活造形学科	夜・通信		0	0	62	13	—
現代社会学部	現代社会学科	夜・通信	62	0	0	62	13	—
法学部	法学科	夜・通信	62	0	0	62	13	—
データサイエンス学部	データサイエンス学科	夜・通信	62	0	0	62	13	—
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/zaigaku/jitsumu.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都女子大学
設置者名	学校法人京都女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakuen/gaiyou/yakuin/index.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(前職) ・大学附置研究所 副所長	2025.5.30～選任後 3年以内に終了する 会計年度のうち最終 のものに関する定時 評議員会の終結の時 まで	学識経験者の理事 としての立場から、 理事会において意 見を述べ、他の理事 とともに本法人の 業務を決定する。
非常勤	(前職) ・小学校教頭	2025.5.30～選任後 3年以内に終了する 会計年度のうち最終 のものに関する定時 評議員会の終結の時 まで	本法人の設置する 学校の卒業生とし ての立場から、理事 会において意見を 述べ、他の理事とと もに本法人の業務 を決定する。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都女子大学
設置者名	学校法人京都女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 開講されるすべての授業について、授業計画書(シラバス)を作成し、ホームページ上で公表している。 シラバスの作成にあたっては、12～1月頃に「シラバス作成要領(ガイドライン)」を全教員に配布・説明し、システムへの入力を行っている。その後、第三者チェック期間を経て、3月中旬頃にホームページにて公表している。 「シラバス作成要領(ガイドライン)」には、シラバスの概要や役割、各項目の説明と記入例を記載しており、執筆者ごとに内容に偏りや不足が生じないように配慮している。 また、2025年度よりシステムを更新し、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、学位授与方針との関連、課題に対するフィードバック、教員の実務経験の有無といった既存の項目に加えて、授業時間外学習の内容にかかる時間を記載する項目を追加するとともに、PBL(課題解決型学習)型科目やディベート・ディスカッションを中心とした科目等でルーブリックを導入し、成績評価の観点と基準を明確化し各科目の到達目標を可視化することで、これまで以上に学生が理解しやすいシラバス内容へと改善を図っている。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campussquare.do?_flowExecutionKey=_cF459E379-CF1E-006C-74AA-9DB04E0BA413_k52AF3A0E-71AE-F50C-5FD6-F55115651086

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位認定にあたっては、あらかじめシラバスにおいてレポート、小テスト、授業への取組などの評価方法と観点を明示し、複数の評価方法を用いる場合はその配分を記載するなど、評価基準を明らかにすることで適切な成績評価を行っている。

授業科目の成績評価は、各授業科目の目的に応じて多角的に判定し、上位より SS、S、A、B、C 及び D をもって評価し、C 以上を合格として当該科目の単位を認定する。

種別	成績評価	GP	判定の基準
合格	SS	5	授業科目の目標を完全に達成し、特に秀でた成果を挙げている。(試験やレポート等の評価に加え、授業への参加態度や授業時間外の学修成果が極めて高いと認められる。)
	S	4	授業科目の目標をほぼ完全に達成している。
	A	3	授業科目の目標を相応に達成している。
	B	2	授業科目の目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。
	C	1	授業科目の目標の最低限を満たしている。
	G	—	GP 評価できない科目の合格。
不合格	D	0	授業科目の目標の最低限を満たしていない。
単位認定 合格	N	—	他大学等で修得した単位。 本学入学前に修得した単位。

なお、学習成果のフィードバックの手段として、以下の通り GP 評価と 100 点法の評価を併記する場合がある。

- (1) GP 評価 5 の場合、95～100 点
- (2) GP 評価 4 の場合、90～94 点
- (3) GP 評価 3 の場合、80～89 点
- (4) GP 評価 2 の場合、70～79 点
- (5) GP 評価 1 の場合、60～69 点

また、入学前や他大学（留学含む）での履修単位や、外国語検定等のスコアの認定についても一定の基準や上限単位数を設けた上で、所定の手続きを経た申請に対し、学内会議での承認をもって単位認定を行っている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

科目ごとの成績評価は、各授業科目の目的に応じて多角的に判定し、6段階の評価を行う。評価ごとにグレードポイント (GP) を求め、単位あたりの平均値を算出する GPA によって成績評価を行う。

【GP の算出方法】

成績評価	GP	判定の基準
SS	5	授業科目の目標を完全に達成し、特に秀でた成果を挙げている。(試験やレポート等の評価に加え、授業への参加態度や授業時間外の学修成果が極めて高いと認められる。)
S	4	授業科目の目標をほぼ完全に達成している。
A	3	授業科目の目標を相応に達成している。
B	2	授業科目の目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。
C	1	授業科目の目標の最低限を満たしている。
G	—	GP 評価できない科目の合格。
D	0	授業科目の目標の最低限を満たしていない。
N	—	他大学等で修得した単位。 本学入学前に修得した単位。

【GPA の算出方法】

$$\text{GPA} = \frac{[(\text{登録科目の単位数}) \times (\text{登録科目で得た GP})] \text{の総和}}{(\text{登録科目の単位数}) \text{の総和}}$$

なお、学習成果のフィードバックの手段として、以下の通り GP 評価と 100 点法の評価を併記する場合がある。

- (1)GP 評価 5 の場合、95～100 点
- (2)GP 評価 4 の場合、90～94 点
- (3)GP 評価 3 の場合、80～89 点
- (4)GP 評価 2 の場合、70～79 点
- (5)GP 評価 1 の場合、60～69 点

全ての履修登録科目の成績評価について GPA を算出し、一定の基準を下回った学生にはアドバイザー教員との学修面談を課す等、学修状況の把握と改善を図っている。

GPA は成績優秀者の年間登録上限単位数の緩和措置や、教職課程等の履修制限、奨学金・留学等の学内選考、就職活動などにも活用しており、その重要性についてはオリエンテーション等で学生に説明している。

また、GPA 制度の概要については『京都女子大学履修規則』に定められており、学生に対しては同規則及び履修方法についてまとめた冊子『単位修得要領』を入学時に配布するとともに、学修面談やオリエンテーション等でも周知を図っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/zaigaku/n0oio7000000etjs-att/n0oio7000000etkq.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定（学位授与）の方針・要件等については、『京都女子大学学位規程』に定める他、『京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程』において大学全体および学部学科別に学位授与の方針を定めており、当該規程及び方針に基づき、卒業の認定をおこなっている。

大学全体の学位授与の方針は次の通りであり、これらの能力を修得したものに学位を授与することとしている。

(1) [知識・理解]

- ①専門分野について基礎的な知識と理解を有している。
- ②専門分野を超えた幅広い知識を有している。
- ③宗教に対する適切な知識と理解を有している。

(2) [汎用的スキル]

- ①日本語を正確に理解・運用することができる。
- ②日本語以外の言語を用いて、効果的なコミュニケーションができる。
- ③数量データを含む多様な情報を、目的に応じた方法で収集・分析・活用できる。

(3) [思考力・判断力]

- ①批判的・論理的にものごとを考えることができる。
- ②信頼できる情報にもとづき、合理的な判断をすることができる。

(4) [対話・協働性]

- ①様々な状況に応じ、適切な形で対話ができる。
- ②他の人と協働して目標の達成に取り組むことができる。

(5) [主体性]

- ①自ら課題を見つけ、積極的に行動できる。
- ②自らをケアし、持続的に課題に取り組むことができる。

なお、上記規程については大学ホームページで公表し、オリエンテーションで説明する等学生に周知を図っている。

卒業の認定にあたっては、必修科目、選択必修科目を含めた 132 単位を卒業要件単位としており、卒業年次の学年末に学生の卒業要件の充足状況についての資料を教務課にて作成する。当該資料をふまえて各学部教授会は審議し、審議結果について学長に報告し、最終的に学長が学位授与（卒業認定）を決定している。

なお、各科目に上記（1）～（5）の能力育成が紐づけられており、単位を修得することによりこれらの能力を身に付けたものとして、学位授与（卒業認定）を行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/diplomapolicy/index.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都女子大学
設置者名	学校法人京都女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kyoto-wu.ac.jp/pdf/2025jigyo_3.pdf#page=34
収支計算書又は損益計算書	https://www.kyoto-wu.ac.jp/pdf/2025jigyo_3.pdf#page=35
財産目録	https://www.kyoto-wu.ac.jp/pdf/2025jigyo_3.pdf#page=45
事業報告書	https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/jouhou/jigyo/r7.html
監事による監査報告(書)	https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakuen/zaimu/houkoku.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和8年度事業計画 対象年度:2026(令和8)年度)
公表方法: https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/jouhou/jigyo/index.html
中長期計画(名称:第2次長期目標、第2期中期計画 対象年度:2020年度~2029年度)
公表方法: https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/medium_term_plan.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/quality/jiko/evaluation_2025.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/quality/hyouka/index.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/mokuhyo/bungaku_2025.html) (概要) 国文学科 国文学や国語についての鋭敏な感性と高度な専門知識とを有し、高い水準の日本語運用能力を発揮して、他者を尊重しながら主体的に課題解決を図り社会の価値創造に取り組む女性を養成します。 英語文化コミュニケーション学科 世界で広く用いられている英語と英語圏の文化について専門知識や理解を深め、立場の異なる他者との日英双方の言語によるコミュニケーション能力を養うことで、批判的・論理的な思考を展開できる、責任感と品位のある女性を養成します。 史学科 歴史学の専門知識と幅広い教養及び技能を身につけ、批判的・論理的な思考力、合理的な判断力を養い、自ら学び続ける力を持つ女性を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/diplomapolicy/bungaku_2025.html#id1) (概要) 国文学科 学位授与の方針 「京都女子大学 学位授与の方針」「国文学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記 5 項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものと、学位を授与します。 知識・理解 国文学・漢文学及び国語学について、専門的知識を有している。 国文学及び国語の諸相について、幅広く深く理解している。 汎用的スキル 文章の読解・作成や種々の表現活動において、高度な日本語運用ができる。 多様な情報を効率的に収集・分析し、課題解決・価値創造のために適切に活用できる。 思考力・判断力 主体的に課題を発見し、その解決に向けて、多角的な視野のもとで批判的・論理的に思考しつつ、柔軟に判断することができる。 文学や言語に関わる様々な文化現象に対して、鋭敏な感性を備えている。 対話・協働性 他者を尊重しながら、状況に応じた効果的で論理的な対話を通じて相互理解に努め、国文学・漢文学及び国語学に関する専門的知識・理解や技能などを活用して、多様な人々と協働することができる。 主体性 自ら目標を設定し、その目標に向かって自立的に学び、主体的に取り組むことができる。 英語文化コミュニケーション学科 「京都女子大学 学位授与の方針」「英語文化コミュニケーション学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記 5 項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものと、学位を授与します。 知識・理解 英語や英語圏の文化について、十分な専門的知識や理解、及び技能を有している。

人文、社会、自然科学などに対する幅広い教養を有している。 汎用的スキル 日本語を正確に理解し表現できる。 十分な実用的英語運用ができる。 思考力・判断力 主体的で批判的、かつ合理的な思考を展開できる。 英語や英語圏文化の知識と理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。 対話・協働性 様々な状況に応じた適切な表現や理解、態度によって対話ができる。 対話や議論を通して、他者（異文化も含め）との相互理解や協調に努めることができる。 主体性 専門的な知識や技能、及び自らの個性や能力を活かして主体的に行動できる。 卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。
史学科 「京都女子大学 学位授与の方針」「史学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記 5 項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものと、学位を授与します。 知識・理解 歴史学について、基礎的な知識・理解を有している。 専門分野を超えた幅広い知識を有している。 宗教に対する正しい知識と理解を有している。 汎用的スキル 現代日本語を正確に理解・運用することができる。 日本語以外の言語を用いて、効果的なコミュニケーションができる。 現代日本語以外の言語(古語を含む)を読み解くことができる。 数量データを含む多様な情報を、目的に応じた方法で収集・分析・活用できる。 思考力・判断力 批判的・論理的にものごとを考えることができる。 信頼できる情報にもとづき、合理的な判断をすることができる。 対話・協働性 様々な状況に応じ、適切な形で対話ができる。 他の人と協働して目標の達成に取り組むことができる。 主体性 自ら課題を見つけ、積極的に行動できる。 自らをケアし、持続的に行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/curriculumpolicy/bungaku_2025.html)
(概要) 国文学科 教育課程編成・実施の方針 「国文学科学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。 知識・理解 1 年次では、古典文学を正確に読むために必須となる古典文法を学び直すとともに、国文学史・国語史さらには講読科目等において、国文学・国語学に関する基礎的知識を身につける。 2 年次では、講読科目等発展的講義や、1 セメスターあたり 1 つの分野を選択した演習科目で、古代から現代までの国文学や国語学の理解を深める。この 2 年次演習科目では、京都の風土についても実地に学ぶ。

3年次では、講読科目等発展的講義や、国文学・国語学の、各時代・分野の中から2つのゼミを選択した演習科目で、国文学・国語学の理解をさらに深めていく。また3年次以降の特殊講義科目において、高度の専門的テーマについて最新の研究成果を学ぶ。

4年次では、1つの分野に絞った演習科目で、さらに一段と専門性の高い知識を修得する。汎用的スキル

文章の読解・作成の高度な日本語運用力を身につけるため、講読科目と特殊講義科目とを体系的に配置する。

課題に関連するデータを効果的に選定・収集・処理し、適切に分析・評価した結果を基に課題解決・価値創造に向け提案できる力を身につけるため、特に演習科目を体系的に配置する。

思考力・判断力

特に演習科目で、収集した用例や先行研究分析を通して、取り組むべき課題を論理的思考力と多角的な視野によってとらえ、客観的事実に基づきつつ柔軟に検証・判断する能力を養う。

作品や用例等、様々な言語事象の分析を通して、日本語・日本文化が育んできた感性を鋭敏に感じ取れるようにする。

対話・協働性

国文学・漢文学及び国語学に関する専門的知識・理解や技能などを活用して、演習科目や卒業論文指導における双方向のきめ細かい指導を通して、社会の規範に従って行動する態度を培う。

1年次から4年次まで開講する演習科目で、主体的にデータ選定・収集・分析・検討する発表や質疑応答を通して、他者を尊重しながら、論理的なコミュニケーションによって相互理解・調整に努め、様々な人々と協働できる力を身につける。

主体性

4年次の卒業論文を必修とし、それまでに積み重ねた学びの集大成として、自ら設定した研究目標に主体的に取り組み、指導教員のきめ細かな指導によって、学生が課題解決・価値創造に向けた方策を主体的に考案し、高度な日本語論文執筆力を養成する。

評価方法

学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジェネリックスキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。

英語文化コミュニケーション学科

「英語文化コミュニケーション学学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。

知識・理解

1、2年次の英語スキル系科目で、言語としての英語そのものに対する知識や理解を深める。

専門科目を通じて、英語圏の文化に対する深い知識を身につける。

英語圏の文化を理解することで、多様な文化に対する柔軟で寛容な態度を養う。

卒業論文の執筆において主体的に調査し、他の学生や担当教員と対話をするなどして、自ら選んだテーマについて、より深い知識や理解を身につける。

汎用的スキル

英会話や英文読解、英作文などのスキル系科目を通じて、英語での高度なコミュニケーション能力を身につける。

1回生からの演習科目を通じて、課題に対して効果的にデータを収集し、適切に利用するといった基礎的な学問的能力を身につける。

1回生から段階的に配置されている専門科目を通じて、英語圏の様々な文化を理解し、多様性に対する柔軟な態度を身につける。

思考力・判断力

- 1、2回生の演習科目におけるレポートの作成や口頭発表を通じて、一定のテーマの元に調査し考える能力や、その場に応じた適切な判断をする力を養う。
- 3、4回生での卒業論文の執筆において、学生が自ら課題を設定し、資料を収集、取捨選択し、テーマに沿って自分の思考を文章化していく能力を高める。

対話・協働性

全学年に配置されている少人数の演習科目において、グループで発表をするなどの課題を通じて、他の学生と対話し、協調しながら作業を進めていく能力を養う。
英語のスキル系科目や演習科目などの少人数クラスで、様々な指導の段階において担当教員と対話を重ねることで、立場の違う他者と意思疎通を図る能力を高める。

主体性

英語圏への留学やその準備を通じて、主体的に考え、責任ある行動をする能力を養う。
英語や英語圏の文化を理解することで、日本語や日本の文化、日本人としての自分を省察し、主体的な自己を確立する。
卒業論文の執筆において、主体的にテーマを設定し、調査、執筆していく力を高める。

評価方法

学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジェネリックスキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。

史学科

「史学科学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。

知識・理解

- 1 年次の概論科目及び 2 年次以降の特殊講義によって歴史学の基礎的な知識を学び、理解を深めます。また、教養科目やオープン科目の履修を通じて専門分野を超えた幅広い知識を修得し、仏教学で宗教に対する正しい知識と理解を身につけます。

汎用的スキル

各年次の演習科目における口頭発表及び配布資料・レポートの作成及び卒業論文の執筆を通じて、現代日本語の正確な理解と運用の力と様々な情報の収集・分析・活用能力を身につけます。また、言語コミュニケーション科目によって日本語以外の言語を用いたコミュニケーション能力を修得します。史料を読解するために必要な現代日本語以外の言語(古語を含む)を読み解く力は、おもに 2 年次以降の講読科目で修得します。

思考力・判断力

各年次の演習科目では、確かな情報に基づき、批判的・論理的に思考し、合理的な判断を下すという一連の流れを実践を通じて学びます。

対話・協働性

各年次の演習科目でおこなわれる討論や協働作業を通じて、状況に応じた対話能力と他の人と協働する力を養います。

主体性

各年次の演習科目及び卒業論文では、自ら課題を見出し、自分の力でその解明を目指します。また、健康科学科目では、自らをケアし、持続的に行動できる知識を学びます。

評価方法

学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジェネリックスキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.kyoto-wu.ac.jp/club/nyushi/senkou/bungakubu.html>)

(概要) 文学部 国文学科 次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。 1. 国語と国文学あるいは歴史や日本文化に強い興味と関心とを抱いていて、関連する基礎的な教科の学びを実質的に修得できており、知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけている。 2. 得られた知識や情報を基にして、論理的・多角的に考えることができ、その結果を活用していくことへの関心がある。 3. 客観的事実に基づく検証・判断の大切さを理解し、多角的な視野をもとうとする姿勢がある。 4. 社会規範を尊重することの大切さに理解をもち、他者とのつながりに関心を持っており、相互理解や調整にとりくもうとする意欲がある。 5. 自ら主体的に学び、創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志をもっている。 文学部 英語文化コミュニケーション学科 次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。 1. 世界で広く用いられている英語と英語圏の文化に強い興味と関心を抱き、関連する教科の学びを実質的に修得できており、知識や技能、および思考力や判断力、表現力を身につけている。 2. 英語と英語圏を中心とした地域の文化、および歴史に関心をもち、幅広い経験を通して学んでいる。 3. 主体性や多様性、協調性を身につけている。 4. 修得した知識や技能を用いて、社会に貢献する意欲がある。(1) 世界で広く用いられている英語と英語圏の文化に強い興味と関心を抱き、関連する教科の学びを実質的に修得できており、知識や技能、および思考力や判断力、表現力を身につけている。 文学部 史学科 次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。 1. 歴史に強い興味と関心を抱き、関連した基礎的な教科の学びを身につけており、世界の政治や経済、歴史・文化に関心をもっている。 2. 自己の考えを論理的に表現・説明するのに必要な現代日本語を理解し、運用することができる。また、歴史学の学びに必要な、現代日本語以外の言語（古語を含む）を修得したいという意欲がある。 3. 修得した知識や情報を基にして、論理的・多面的に考え、その結果を活用していくことに関心がある。 4. 他者と十分なコミュニケーションを図り、互いに協力しながら課題に取り組んでいく姿勢がある。 5. 自ら主体的に学びに取り組み、そこで修得した能力を社会で活かしたいという意欲がある。
--

学部等名 発達教育学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/mokuhyo/hattatsu_kyoiku_2025.html)
(概要) 教育学科 子どもから大人までの学びと育ち、及びその支援に関する幅広い教養と専門知識を身につけ、教育・保育機関や地域社会、民間企業等の様々な現場で、他者と共に未来を創り社会に貢献できる女性を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/diplomapolicy/hattatsu_2025.html)

(概要) 発達教育学部 教育学科 学位授与の方針 「京都女子大学 学位授与の方針」「教育学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記 5 項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものと、学位を授与します。 知識・理解 教育学に関する専門的な知識・理解を有している。 子どもから大人までの学びと育ち、及びその支援に関する幅広い知識を有している。 汎用的スキル 言語を正確に理解・運用することができる。 多様な情報を、目的に応じた方法で収集・分析・活用できる。 思考力・判断力 批判的・論理的にものごとを考え、合理的な判断をすることができる。 対話・協働性 目標の達成に向けて、様々な人と対話・協働することができる。 主体性 自ら課題を見つけ、自らをケアしつつ、積極的・持続的に行動できる。 教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/curriculumpolicy/hattatsu_2025.html)
(概要) 発達教育学部 教育学科 「教育学科学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。 知識・理解 1 年次においては、教育学に関係する卒業必修科目である「教育原論」「教職論」などを中心に、教育学を学ぶための基盤を養う。2 年次以降は、自分の関心や将来像に応じて、幼児教育、学校教育、音楽教育、特別支援教育、社会教育などを体系的に学び、専門的な知識・理解を得る。 1 年次と 2 年次の「発達教育学演習Ⅰ」「発達教育学演習Ⅱ」において、子どもから大人までの学びと育ち、及びその支援に関する 7 つの専門分野（「保育探究」「児童文化」「教育探究」「授業探究」「インクルーシブ教育」「音楽探究」「生涯教育」）について幅広く学ぶ。さらに、2 年次以降も、子どもから大人までの学びと育ち、及びその支援に関して幅広く学ぶ。 汎用的スキル 1 年次の「発達教育学入門演習」で言語の理解・運用について学ぶほか、様々な科目における課題への取り組みを通して、直接的・間接的に、言語を理解し運用する能力を育む。 1～4 年次の様々な科目における学習への主体的な取り組みを通して、多様な情報を目的に応じた方法で収集・分析・活用する力を身につける。「発達教育学研究Ⅰ」「発達教育学研究Ⅱ」などの科目においては、情報の収集・分析・活用を通して、卒業研究に取り組む。 思考力・判断力 子どもから大人までの学びと育ちに関する、1 年次から 4 年次までの様々な科目を通じて、様々な情報や考えをもとに、既存の枠組みにとらわれることなく批判的・論理的に考え、合理的な判断ができる能力を養う。 対話・協働性 子どもから大人までの学びと育ちに関する様々な科目を通じて、様々な人々を取り巻く状況や現代社会における多様な問題について学びながら、意見の異なる他者との意見交換を重ね、多様性を尊重した上で対話できる力を身につける。さらに、様々な科目でのグループワークや協働作業を通じて、多様な人々の特徴を生かしつつ協働できる力を身に

つける。
主体性 1 年次から 4 年次まで開講する講義や演習科目において、自ら課題を見つける経験を重ねながら、「発達教育学研究Ⅲ」「発達教育学研究Ⅳ」と卒業研究を集大成として、自ら設定した研究目標に主体的に取り組む力を培う。
評価方法 学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジェネリックスキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/daigaku/senkou/hattatsu.html)
(概要) 発達教育学部 教育学科 次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。 1. 子どもから大人までの学びと育ちに強い興味と関心を抱いている。 2. 適切に収集した情報を用いて、自己の考えを論理的に表現することに関心がある。 3. 解決すべき課題を主体的に発見し、広い視野と根拠に基づいて判断することに関心がある。 4. 他者を尊重しながら相互理解・調整に努め、様々な人々と協働していこうとする姿勢がある。 5. 社会における多様な問題への関心や知的好奇心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲を持っている。

学部等名 心理共生学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/mokuhyo/shinri_2025.html)
(概要) 心理共生学科 心理共生学に関する教育・研究を通じて、対人援助に関する知識と技能、エビデンスに基づいて実践する力を身につけ、学校、病院、企業、行政等をはじめとした社会の様々な場面で、心理共生学の専門知識を活かしてウェルビーイングの向上や共生社会の構築に貢献できる女性を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/diplomapolicy/shinri_2025.html)
(概要) 心理共生学科 「京都女子大学 学位授与の方針」「心理共生学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記 5 項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものとして、学位を授与します。 知識・理解 ウェルビーイングの向上や共生社会の構築に取り組むにあたって基盤となる、心理学、社会福祉学、養護保健学等の心理共生学に関する専門的知識を有している。 汎用的スキル 課題に関する量的・質的データ等の解析を通して科学的根拠に基づく解決策を策定できる。 対人援助技法をウェルビーイングの向上に活用できる。 思考力・判断力 分野横断的視野と科学的根拠に基づいて合理的に判断できる。 対話・協働性

他者を尊重しながら、論理的なコミュニケーションによって相互理解・調整に努め、様々な人々と協働できる。 主体性 自ら目標を設定し、目標に向かって主体的に取り組むことができる。 社会の一員としての自覚を持ち、自己の良心と社会の規範に従って行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/curriculumpolicy/shinri_2025.html)
(概要) 心理共生学科 「心理共生学科学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。 知識・理解 1～2年次前期までは、ウェルビーイングの向上や共生社会の構築に資する人材としての基盤となる、心理学、社会福祉学、養護保健学等の基礎的知識を身につけるため「学部基盤科目」及び「専門基礎科目」を設定する。学部基盤科目では、カウンセリングマインドや福祉マインド及び健康科学に関する基礎的素養を身につけるとともに対人援助職の職責の違いを学ぶ。専門基礎科目では、心理学の主要領域や研究法、「人」「環境」「人と環境の交互作用」に関する理論、ソーシャルワーク実践、幼児期から青年期における心理、学校保健・医学の基礎的知識を学ぶ。2年次後期以降は、対人援助に関するより高度な専門知識・技能や、収集・分析したデータに基づき課題解決する力を養うことを目的とした「専門発展科目」を配置する。学生が自身の関心や将来像に応じて、履修モデルやカリキュラム・ツリーを参考としながら、体系的に専門性を積み上げる教育課程とする。 汎用スキル 心理共生学部共通の汎用的スキルとして、情報技術を用いてデータを適切に処理・分析する基礎的能力を演習を通して獲得する。心理学領域においては、データ収集・分析などの基本的なデータサイエンスの知識を駆使して、課題解決方を提案できる力及びエビデンスに基づき心理的支援を実践するための科目を配置する。社会福祉領域では、ウェルビーイング向上に向けて、個人のストレングスやレジリエンシーに気づくために様々な情報を収集・分析できるアセスメント能力を養い、科学的根拠に基づくアプローチを実践するための科目を配置する。養護保健領域では、学校保健分野と連動し実践的な指導力を高めるとともに、保健の分野のみならず児童生徒の人間の成長を、心理学・福祉学分野を包括したグローバルな視点からサポートするための科目を配置する。 思考力・判断力 1年次から4年次まで開講する演習科目を通して、物事を複数の視点から考えて統合する力や、未知の現象や困難な状況にあっても専門的知識・技能を活かし、事実に基づき科学的に対処できる能力を養う。 対話・協働性 1年次から4年次まで開講するPBL（Problem Based Learning）型の演習科目や各領域に配置する対人援助に関わる実践演習では、グループワークを通して、他者を尊重しながら論理的なコミュニケーションによって相互理解・調整に努め、様々な人々と協働できる力を身につける。「心理共生実践」では、人間や人間関係について深い関心を持つとともに、個性や多様性を尊重しつつ他者と積極的にコミュニケーションできる力を多職種連携教育の枠組みで養う。 主体性 建学科目群の「仏教学」や共通科目群に配置された「ジェンダー科目」「教養科目」等を通して、仏教精神に根差す高い倫理観と市民に必要とされる幅広い教養、より良き市民としての社会的責任感を醸成する。演習科目や卒業研究における双方向の指導を通して社会の規範に従って行動する態度、様々な価値観を持つ人々とチームを組む中で必要に

応じてリーダーとなりフォロワーとなるメンバーシップを発揮することができる力を養う。また、卒業研究を必修とし、自ら設定した目標に対して主体的に取り組む能力の確立を目指すとともに、社会の多様な課題の解決に他者と連携しながら、能動的に貢献できる能力を培う。 評価方法 学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジェネリックスキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/daigaku/senkou/shinri.html）
（概要） 心理共生学科 次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。 1. 専門教育と関連した基礎的な教科の学びを身につけている。 2. 得られた知識や情報を基にして、論理的・多角的に考え、その結果を活用していくことに関心がある。 3. 他者と十分なコミュニケーションを図り、互いに協力しながら課題に取り組んでいく姿勢がある。 4. 心理学、社会福祉学、養護・保健学と社会のつながりに対する関心を持っており、主体的に大学での学びに取り組み、そこで修得した能力を社会で活かしたいという意欲がある。 5. 自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持っている。
学部等名 家政学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/mokuhyo/kasei_2025.html）
（概要） 食物栄養学科 食物栄養学に関する教育・研究を通じて、食・栄養・健康に関する専門知識・理解を深め、病院、福祉施設、保育所、給食施設、保健所、学校、行政、企業など社会の様々な場面で、学びの成果を活かし、課題解決に貢献できる女性を養成します。 生活造形学科 快適な生活環境について、「文化・意匠」「ファッション・繊維」「建築・インテリア」の視点からデザイン（知識・論理的思考に基づく判断・構想・計画・提案を統合的に行うこと）できる女性を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/diplomapolicy/kasei_2025.html#idl）
（概要） 食物栄養学科 「京都女子大学 学位授与の方針」「食物栄養学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記 5 項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものとして、学位を授与します。 知識・理解 食物栄養学の分野について、基礎的な知識・理解・技能を有している。 専門分野を超えた幅広い知識を有している。 汎用的スキル 日本語を正確に理解・運用することができる。 日本語以外の言語を用いて、効果的なコミュニケーションができる。 数量データを含む多様な情報を、目的に応じた方法で収集・分析、活用できる。

思考力・判断力

批判的・論理的にものごとを考えることができる。

食物栄養学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。

対話・協働性

様々な状況に応じ、適切な形で対話ができる。

他の人と共同して目標の達成に取り組むことができる。

主体性

自ら課題を見つけ積極的に行動できる。

自らをケアし、持続的に行動できる。

生活造形学科

「京都女子大学 学位授与の方針」「生活造形学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記 5 項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものとして、学位を授与します。

知識・理解

生活に関わる社会の課題を分析し解決に向けた提案を行うにあたり、その背景・根拠となる専門的知識・技能を有している。

京都で学ぶ学生として伝統文化への深い知識・理解を有している。

汎用的スキル

課題に関連するデータを収集し、分析することができる。

分析した内容について論理的に整理し、解決に向けた提案へと結びつけることができる。

提案を視覚的・言語的に表現し、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。

思考力・判断力

専門的知見・実証データにもとづき、論理的に思考・判断することができる。

機能性・安全性・材料特性・環境負荷・審美性・市場性・歴史文化等を総合的に分析・調整したうえで提言・デザインができる。

対話・協働性

地域や社会の中で、その課題に対し地域や関係者に寄り添いながら解決に向けて取り組むことができる。

異なる価値観を尊重し、相互理解と調整に努め、他者と協働しながら課題解決に向けて取り組むことができる。

主体性

教員の指導を受けながら、課題解決に向けて自律的主体的に取り組むことができる。

地域・社会の中で自らの役割を見つけ、その責任の範囲で主体的に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/curriculumpolicy/kasei_2025.html#id2)

(概要)

食物栄養学科

「食物栄養学科学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学 教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。

知識・理解

1 年次では、食と健康に関する科目を理解していくために必要な基礎的知識を身につけます。また発展的講義で管理栄養士に関する科目の専門基礎分野の学びを始めていきます。2 年次以降では、発展的講義で専門基礎分野に加えて専門分野も開始し、管理栄養士に関する科目（専門基礎分野・専門分野）の学びを深めていきます。

汎用的スキル

日本語を正確に理解・運用することができる力及び数量データを含む多様な情報を目的に応じた方法で収集・分析、活用できる力を身につけるため、実験系・実習系科目及び卒業研究に関わる科目を配置しています。日本語以外の言語を用いて、効果的なコミュニケーションができる力を身に付けるための科学系の英語科目を配置しています。

思考力・判断力

実験・実習系科目を通して、主体的に調査・実験し、考える力、批判的・論理的にものごとを考えることができる能力及び食物栄養学の知識・理解等に抛りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる能力を身につけます。

対話・協働性

個々の将来の活躍の場を想定し、「臨床栄養」、「健康教育」、「研究開発」の3系列の中から1つを選択して講義を受け、校外実習や臨地実習を行い、さらに、卒業研究に備えた講義を受けることにより、様々な状況に応じ、適切な形で対話ができる力を身につけ、他の人と共同して目標の達成に取り組むことができる能力を身につけます。

主体性

卒業研究を必修とし、それまでに積み重ねた学びの集大成として、自ら設定した研究目標に主体的に取り組み、指導教員の指導によって、課題解決・価値創造に向けた方策を主体的に考案し、プレゼンテーションする力を身につけます。

評価方法

学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジェネリックスキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。

生活造形学科

「生活造形学科学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。

知識・理解

1 年次前期は生活造形学について広く学び、社会におけるデザインとは個人の感性によるものではなく、さまざまな知見や実証的データに基づくものであることを理解します。そのうえで1 年次後期から2 年次までは、それぞれの興味に応じて3 領域の基礎的専門知識・技能を身につけます。3 年次以降は、希望する専門分野を絞って高度な知識・技能を身につけます。また京都で学ぶ学生として、1～3 年次前期で京都の伝統文化に関する知識を学び、3 年次後期～4 年次で伝統文化の保存・プロデュースについて習得する。

汎用的スキル

1・2 年次では、それぞれの実習・実験・演習において各専門分野の基礎的技能を習得します。3 年次には、講義で得た知識を実習・実験に活かすことで技能の応用力を身につけます。同時に、視覚的に表現するプレゼンテーション能力を磨きます。4 年次には、各自で見つけた課題に対し、論理的に分析しその結果を視覚的に表現し提案するという一連の流れを経験します。

思考力・判断力

1・2 年次では、思考・判断の根拠となる専門的知識について習得します。3・4 年次では、1・2 年次に身につけた機能性・安全性・材料特性・環境負荷・審美性・市場性・歴史文化等にかかわる専門知識にもとづき、課題を分析したうえで提言・デザインする能力を習得します。

対話・協働性

1～3 年次で身につけた知識・技能を活かし、4 年次では、地域や社会に潜む「生活」に関する課題に対し、地域や企業の関係者、隣接領域の研究者と対話しながら解決の糸口を見つけ、ときには協働しながら提案をおこないます。

主体性

1～3 年次の実習では、与えられた課題に対し各自でコンセプトを立てて思考し、自律的にものづくり提案をおこなう力を養います。4 年次では教員の指導のもとに、課題解決に向けて自律的主体的に取り組みます。また地域・社会の中にあつては、自らの役割を見つけその責任の範囲で主体的に課題に取り組みます。

評価方法

学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジェネリックスキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/club/nyushi/senkou/kaseigakubu.html）
（概要） 家政学部 食物栄養学科 次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。 1. 食・栄養・健康に強い興味と関心とをもち、関連する教科の学びを実質的に修得できている。知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけている。 2. 食・栄養・健康にとどまらず、社会に関心とをもち、幅広い経験を通して学んでいる。 3. 生物と化学に関する基本的な知識がある。 4. 主体性や多様性、協調性を身につけている。 5. 修得した知識・技能を用いて社会に貢献する意欲がある。 家政学部 生活造形学科 次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。 1. 生活造形（造形意匠＜デザイン＞、アパレル造形、空間造形）に対する強い関心とをもち、関連する教科の学びを実質的に修得できている。知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけている。 2. 生活造形にとどまらず、人間の生活や社会に関心とをもち、幅広い経験を通して学んでいる。 3. 主体性や多様性、協調性を身につけている。 4. 修得した知識・技能を用いて社会に貢献する意欲がある。
学部等名 現代社会学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/mokuhyo/shakai_2025.html）
（概要） 現代社会学科 多角的な視野と専門的な知識・技能を基礎として、現代社会について批判的に考察する力を養います。多様な価値観を持つ他の人々対話・協働しながら、現代社会の諸問題の解決に主体的に取り組むことができる女性を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/diplomapolicy/shakai_2025.html）
（概要） 現代社会学科 「京都女子大学 学位授与の方針」「現代社会学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記 5 項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものとして、学位を授与します。 知識・理解 現代社会の諸課題に取り組むうえで求められる専門的な知識・理解を有している。 人文・社会科学から情報・自然科学まで、幅広い分野についての基礎的な知識・理解を持ち、現代社会について多角的に考察する分野横断的な視野を有している。 汎用的スキル 日本語を正確に理解・運用することができる。 英語によるコミュニケーション能力、社会調査・分析のスキル、情報通信技術（ICT）の活用スキルといった、現代社会において求められる技能や能力を有している。 思考力・判断力 現代社会の諸問題について、批判的・論理的に考えることができる。 現代社会の諸問題について、信頼できる情報にもとづき、合理的な判断をすることができ

る。 対話・協働性 様々な状況に応じ、適切な形で対話ができる。 他の人と協働して目標の達成に取り組むことができる。 主体性 自ら課題を見つけ、積極的に行動できる。 自らをケアし、持続的に行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/curriculumpolicy/shakai_2025.html)
(概要) 現代社会学科 「現代社会学科学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学 教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マッ プ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。 知識・理解 1 年次では、人文・社会科学から情報・自然科学までの幅広い分野について、導入科目と アプローチ科目を履修し、現代社会を理解するうえで必要な基礎的知識を修得します。 2 年次からは「文化・心理」「家族・地域」「経済・ビジネス」「環境・公共」「政治・ 国際関係」の5コースのいずれかを選択し、体系的に配置されたコース科目群を履修し て専門的な知識を修得するとともに、自分の選択したコース以外からも専門科目を履修 することにより、現代社会の諸問題について多角的に考察する分野横断的な視野を獲得 します。 汎用的スキル 1 年次後期から3 年次まで体系的に配置された英語・調査・情報の3 領域からなるスキル 科目を選択し、現代社会で求められる技能や能力を修得します。英語系のスキル科目で は、専門文献の講読や語学研修を通じて英語運用能力を高めます。調査系のスキル科目 では、現代社会を的確に把握するための社会調査のスキルを修得します。情報系のスキ ル科目では、情報通信技術（ICT）を活用するスキルを修得します。また演習科目や講義 科目における能動的な学びを通じて、正確な日本語を運用する能力を育成します。 思考力・判断力 1 年次から4 年次まで少人数制の演習科目を履修し、現代社会の諸問題に対するアクティ ブ・ラーニングを実践します。1 年次前期のゼミでは、基本的なアカデミック・スキル を修得し、1 年次後期から2 年次後期までは、1 セメスターあたり1 つのテーマに関す るゼミを選択して学びの領域を広げていきます。3 年次から4 年次にかけては、卒論作 成に向けて各自の関心に応じたゼミを選択し、専門的な学びを発展させます。これら演 習科目やその他の講義科目における能動的な学びを通じて、現代社会の諸問題について 論理的に思考し、また合理的に判断する力を養います。 対話・協働性 演習科目と講義科目において、プレゼンテーションやディスカッション、またグループワ ークなどを行い、他の人々との対話・協働を通じて現代社会の諸問題について深く考察 し、その解決に向けて取り組むことを学びます。また、現代社会の多様な考え方や価値 観に触れるなかで、他の人々との対話や協働のあり方とその必要性について理解を深め ます。 主体性 演習科目と講義科目において、自発的に課題を発見し、その解決に向けて取り組む力を養 成します。そして4 年次には、大学での学修の集大成として、指導教員の指導のもと、 自ら設定したテーマについて卒業論文を作成し、生涯にわたって学び続ける能力の確立 を目指します。 評価方法 学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、 平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジ

エネリックススキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/club/nyushi/senkou/shakaigakubu.html)
(概要) 現代社会学科 次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。 1. 現代社会について学ぶための基礎的な知識を身につけている。 2. 現代社会の諸問題に広い関心を持ち、それについて論理的に考え、自己の見解を表現する基礎的な能力を身につけている。 3. 現代社会の諸課題に取り組もうとする意志を持ち、そのために求められる幅広い視野と、専門的な知識の両者を獲得したいという意欲を持っている。 4. 現代社会において求められる、言語コミュニケーション、社会調査、情報通信技術（ICT）などに関わるスキルを修得したいという意欲を持っている。 5. 確かな知識をもとに、論理的に思考・判断する能力を獲得したいという意欲を持っている。 6. 他の人々と対話し、また協働して目標を達成する能力を獲得したいという意欲を持っている。 7. 自ら課題を見つけ、その解決に向けて持続的に取り組む主体性を身につけたいという意欲を持っている。

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/mokuhyo/hogaku_2025.html)
(概要) 法学科 法学や政治学等の分野の専門知識と幅広い教養とともに、ジェンダーの視点をもとに批判的な立場から、社会の中の様々な課題に主体的に取り組む、法的に解決する力を養います。そして卒業後、法律専門職だけでなく、公務員、民間企業で働く職業人として、あるいは社会的コミュニティの中でのリーダーとして活躍できる、凜とした品位ある女性を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/diplomapolicy/hogaku_2025.html)
(概要) 法学科 「京都女子大学 学位授与の方針」「法学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記 5 項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものと、学位を授与します。 知識・理解 法学、政治学の分野に関する基礎的な知識・理解を有している。 法学、政治学上の諸問題を理解する視点として、ジェンダーに関する基礎的な知識・理解を有している。 汎用的スキル 法学・政治学の知識をもとに、課題に関する情報やデータを効果的に選定・収集し、分析できる。 収集した情報を批判的に検討し、論理的なプレゼンテーションや討論をすることができる。 論拠を示しながら、自らの意見を説得的に展開する文章力を身につけている。 思考力・判断力 批判的・合理的な思考を展開できる。 法学・政治学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。 対話・協働性

他者を尊重し、理解に努め、適切なコミュニケーションを取ることができる。 自らの専門的知識、個性や能力を活かして他者と協働できる。 主体性 自らの目標に向かってチャレンジすることができる。 主体的に課題を発見し、積極的に取り組むことができる。 適切なリーダーシップを発揮できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/curriculumpolicy/hogaku_2025.html)
(概要) 法学科 「法学科学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。 知識・理解 1 年次では、入門科目と並行して、基本六法をはじめとする法学・政治学の基礎的科目の学びが開始され、2 年次以降、基本六法を理解を深めるとともに、行政法や労働法、国際法など様々な法領域を広く学び、法学・政治学分野の基礎的な知識と理解を習得することができる。また、1 年次の「ジェンダー法Ⅰ」から3 年次の「ジェンダー法Ⅵ」までのジェンダー法科目や、「ジェンダー法実習」「平和と女性」において、日常生活から社会構造まで、ジェンダーの視点から分析することを学ぶことを通じて、法学・政治学の諸問題を解決する視点としてのジェンダーに関する基礎的な知識と理解を習得することができる。 汎用的スキル 大学生活に適応し、法学科における学修の道筋についての理解を得るために1 年次に「導入演習」「基礎演習」を配置する。2 年次から4 年次までの各セメスターで配置される少人数の演習科目において、専門分野を深く学びつつ、報告や質疑応答などを通じて、複眼的に思考する能力、コミュニケーション能力、問題発見・課題解決力、プレゼンテーション能力、説得力のある文章力を身につけることができる。 思考力・判断力 2 年次以降に開講されるやや高度な専門科目と「ジェンダー法Ⅱ～Ⅵ」、1 年次から4 年次までの各セメスターで開講される演習科目などを通して、法学・政治学の基本的知識をもとに、社会の中の様々な事象における法学的・政治学的課題につき、必要な情報を収集・分析し、広い視野と根拠に基づいて批判的・合理的に判断する力を身につける。 対話・協働性 各専門科目、特に国際関係法科目と女性のための法学科目等の学びを通して、他者を尊重し、理解に努め、適切なコミュニケーションをとる姿勢を身につける。1 年次から4 年次までの各セメスターで開講する演習科目での、課題に関する資料の収集・分析・検討に関するグループワークと報告・討論等の中で、個性や能力を活かしながら人とのかかわる方法を学ぶとともに、他者を尊重し、協働する力を養う。 主体性 1 年次から4 年次までの各セメスターで開講される演習科目において、自らテーマを選んで調査・研究・発表を行うことにより、主体的に課題を発見する力を養うことができる。演習科目に加えて2 年次の「ジェンダー法実習」等においては、討論や意見交換に積極的に参加することや、グループ・ワークに取り組むことを通じて、各自が個性を活かしたリーダーシップを発揮することを学ぶ。さらに、4 年次の「卒業研究」においては、自ら選択した研究テーマを探究し、卒業論文の完成を目指して努力することを通じ、自分の目標にチャレンジする力を身につけることができる。 評価方法 学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジェネリックスキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/club/nyushi/senkou/hogakubu.html) (概要) 法学科 次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。 1. 法学や政治学等に強い興味と関心とを抱き、関連する教科の学びを実質的に修得でき、知識・技能、思考力・判断力・表現力（特に自己の考えを論理的に表現・説明できる能力の基礎）を身につけている。 2. 法学や政治学等の分野の問題について関心を持ち、幅広い経験を通して学ぼうとする意欲がある。 3. 国内外の社会情勢や多様な問題に関心があり、法学や政治学等の分野で学んだことを活かしてそれらに取り組む意欲がある。 4. 主体性や協調性、多様性を尊重する姿勢を身につけている。 5. 修得した知識・技能を用いて社会に貢献する意欲がある。
--

学部等名 データサイエンス学部 教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/mokuhyo/data_2025.html) (概要) データサイエンス学科 データサイエンスに関する教育・研究を通じて、社会の諸課題を発見する感性、科学的に洞察するためのデータ収集・処理・分析能力を身につけ、企業、行政等をはじめとした社会の様々な場面で、データサイエンスの深い教養と専門知識を活かして課題解決に貢献できる女性を養成します。 卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/diplomapolicy/data_2025.html) (概要) データサイエンス学科 「京都女子大学 学位授与の方針」「データサイエンス学科 人材養成・教育研究上の目的」に基づき、卒業までに身につけるべき能力・資質として下記5項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、132 単位を修得することによって、本学科における到達目標を達成したものとして、学位を授与します。 知識・理解 社会の課題を洞察し、データを活用した課題解決・価値創造に取り組むにあたっての基盤となる、統計学、情報学、経済学・経営学等のデータサイエンスに関する専門的知識を有している。 汎用的スキル 課題に関連するデータを効果的に選定・収集・処理できる。 データが得られた分野を十分理解した上で、データサイエンスのスキルを駆使してデータを適切に処理・分析できる。 データ分析から得られた結果の意味を適正に解釈し、課題解決・価値創造に向けた方策を考案できる。 思考力・判断力 様々な事象から取り組むべき課題を論理的思考力と多角的な視野によってとらえ、データに基づいて検証・判断できる。 対話・協働性 社会の一員としての自覚とデータサイエンティストとして必要な倫理観を備え、他者を尊重しながら、論理的なコミュニケーションによって相互理解・調整に努め、様々な人々と協働できる。 主体性 自ら目標を設定し、目標に向かって主体的に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/vision/rinen/curriculumpolicy/data_2025.html)
(概要) データサイエンス学科 「データサイエンス学科学位授与の方針」に掲げる能力・資質を身につけるため、「京都女子大学教育課程編成・実施の方針」に基づき教育課程を体系的に編成し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性・構造を明示する。 知識・理解 1～2年次前期までは、社会の課題を洞察し、データを活用した課題解決・価値創造に取り組むにあたっての基盤となる、統計学、情報学、経済学・経営学等のデータサイエンスに関する専門的知識を身に付けるため、「専門基礎科目」として各領域の基礎的な科目を設定し、各領域を広く学ぶ。2年次後期以降は、より高度なデータ処理・分析に必要な知識・技能を身につける科目や、多様な分野におけるデータサイエンスの活用に関する知見を身につける科目等、専門性を深めた「専門発展科目」として配置し、学生が自身の関心や将来像に応じて、履修モデルやカリキュラム・ツリーを参考としながら、体系的に専門性を積み上げる教育課程とする。 汎用的スキル 課題に関連するデータを効果的に選定・収集・処理できる高度な力を身に付けるため、情報系科目（情報学）を体系的に配置する。データが得られた分野を十分理解した上で、データサイエンスのスキルを駆使してデータを適切に処理・分析できる高度な力を身に付けるため、数理・統計系科目（統計学）を体系的に配置する。データ分析から得られた結果の意味を適正に解釈し、課題解決・価値創造に向け提案できる力を身に付けるため、社会ソリューション科目（経済学・経営学等）を体系的に配置する。 思考力・判断力 1年次から4年次まで開講するPBL（Problem Based Learning）型の演習科目で、学んだ理論に基づき実践するデータ分析の意味理解を通して、様々な事象から取り組むべき課題を論理的思考力と多角的な視野によってとらえ、データに基づいて検証・判断する能力を養う。 対話・協働性 1年次から4年次まで開講するPBL（Problem Based Learning）型の演習科目で、提示された事例を基に、主体的にデータ選定・収集・分析・検討するグループワークを通して、他者を尊重しながら、論理的なコミュニケーションによって相互理解・調整に努め、様々な人々と協働できる力を身につける。その際、建学科目群の「仏教学」や共通科目群に配置された「ジェンダー科目」「教養科目」等を通して、仏教精神に根差す高い倫理観と市民に必要とされる幅広い教養、より良き市民としての社会的責任感を醸成する。専門科目群の履修を通してデータサイエンティストとして必要な倫理観を学ぶと共に、演習科目や卒業研究における双方向のきめ細かい指導を通して社会の規範に従って行動する態度を培う。 主体性 卒業研究を必修とし、それまでに積み重ねた学びの集大成として、自ら設定した研究目標に主体的に取り組み、指導教員のきめ細かな指導によって、学生が課題解決・価値創造に向けた方策を主体的に考案し、プレゼンテーションする力を養成する。 評価方法 学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価基準（試験、レポート、平常点）を用いて評価する。さらに、成績分析や卒業論文・研究、授業アンケート、ジェネリックスキル測定テスト等の結果を用いて、教育課程全体の評価検証を行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kyoto-wu.ac.jp/club/nyushi/senkou/copy_of_hogakubu.html)

(概要)

データサイエンス学科

次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。

1. 専門教育と関連した基礎的な教科（特に数学）の学びを身につけている。
2. 得られた知識や情報を基にして、論理的・多面的に考え、その結果を活用していくことに関心がある。
3. 他者と十分なコミュニケーションを図り、互いに協力しながら課題に取り組んでいく姿勢がある。
4. データと社会とのつながりに対する関心を持っており、主体的に大学での学びに取り組み、そこで修得した能力を社会で活かしたいという意欲がある。
5. 自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
文学部	－	24 人	18 人	2 人	2 人	0 人	46 人
発達教育学部	－	24 人	5 人	3 人	1 人	0 人	33 人
心理共生学部	－	13 人	2 人	5 人	0 人	0 人	20 人
家政学部	－	21 人	4 人	4 人	2 人	0 人	31 人
現代社会学部	－	18 人	5 人	4 人	1 人	0 人	28 人
法学部	－	11 人	3 人	1 人	0 人	0 人	15 人
データサイエンス学部	－	11 人	2 人	3 人	1 人	0 人	17 人
教養部（一般教養）	－	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
附置研究所	－	3 人	0 人	0 人	4 人	0 人	7 人
その他	－	8 人	0 人	0 人	0 人	0 人	8 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		584 人					584 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/kywuhp/KgApp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
【主なFDの取り組み】							
■授業アンケート 授業改善、教育の質向上に資することを目的として、学部生に対して授業アンケートを実施し、結果は自己点検・評価プロセスを通じて、改善・向上活動に反映している。							
■大学院生アンケート 授業や研究指導の在り方等、大学院教育の改善に資することを目的として、大学院生に対してアンケートを実施し、結果は自己点検・評価プロセスを通じて、改善・向上活動に反映している							
■全学FD研修会 毎年度、課題認識もとづくテーマ等を検討し、課題解決に向けた事例紹介や参考となる内容の講演会を開催している。							
■各学科FD 学科ごとの課題・特性等をふまえ、毎年度個別にFDを企画・実施し、加えて学生が参画するFDを毎年度必ず実施している。							
■その他 学外で実施されるFD等の案内を受信した際、学内教職員に情報共有している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	385 人	403 人	104.7%	1,540 人	1606 人	104.3%	—	2 人
発達教育学部	195 人	200 人	102.6%	780 人	960 人	123.1%	—	2 人
心理共生学部	155 人	130 人	83.9%	620 人	480 人	77.4%	—	0 人
家政学部	240 人	249 人	103.8%	960 人	976 人	101.7%	—	0 人
現代社会学部	250 人	282 人	112.8%	1,000 人	1118 人	111.8%	—	1 人
法学部	120 人	128 人	106.7%	480 人	507 人	105.6%	—	0 人
データサイエンス学部	95 人	62 人	65.3%	380 人	349 人	91.8%	—	0 人
合計	1,440 人	1,454 人	101.0%	5,760 人	5,996 人	104.1%	—	5 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	380 人 (100%)	11 人 (2.9%)	344 人 (90.5%)	25 人 (6.6%)
発達教育学部	386 人 (100%)	28 人 (7.3%)	345 人 (89.4%)	13 人 (3.4%)
家政学部	307 人 (100%)	17 人 (5.5%)	276 人 (89.9%)	14 人 (4.6%)
現代社会学部	310 人 (100%)	2 人 (0.6%)	298 人 (96.1%)	10 人 (3.2%)
法学部	123 人 (100%)	7 人 (5.7%)	112 人 (91.1%)	4 人 (3.3%)
合計	1506 人 (100%)	65 人 (4.3%)	1375 人 (91.3%)	66 人 (4.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【主な進学先】				
大阪公立大学大学院、大阪大学大学院、京都女子大学大学院、京都府立大学大学院、奈良女子大学大学院、鳴門教育大学大学院、立命館大学大学院 など				
【主な就職先】				
株式会社赤ちゃん本舗、大阪市職員、社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団、大阪府小学校、大塚食品株式会社、カネテツデリカフーズ株式会社、関西電力株式会社、キュービー株式会社、株式会社京都アニメーション、株式会社京都銀行、京都市特別支援学校、京都中央信用金庫、近畿日本鉄道株式会社、株式会社ギンビス、警視庁職員、コクヨ株式会社、国家公務員 専門職、株式会社G S コアサ、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹、株式会社滋賀銀行、滋賀県中学校、S k y 株式会社、住友生命保険相互会社、住友林業株式会社、株式会社セイバン、積水ハウス株式会社、セコム株式会社、全日本空輸株式会社、損害保険ジャパン株式会社、大王製紙株式会社、ダイキン工業株式会社、大東建託株式会社、大和証券株式会社、タカラスタンダード株式会社、タキイ種苗株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、株式会社トンボ、株式会社永谷園、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社日清製粉グループ本社、株式会社ニトリ、日本銀行、日本航空株式会社、日本生命保険相互会社、株式会社日本旅行、株式会社乃村工藝社、はごろもフーズ株式会社、ヒルトングループ、株式会社ファーストリテイリング、株式会社ファミリア、株式会社ファミリーマート、富士通株式会社、フジパンググループ本社株式会社、星野リゾートグループ、株式会社マイナビ、株式会社三井住友銀行、株式会社三菱UFJ銀行、株式				

会社村田製作所、合同会社ユー・エス・ジェイ、吉本興業ホールディングス株式会社、株式会社リクルート、株式会社良品計画、リンナイ株式会社、YKK株式会社、株式会社ワコール など
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	428 人 (100%)	358 人 (83.6%)	47 人 (11.0%)	20 人 (4.7%)	3 人 (0.7%)
発達教育学部	407 人 (100%)	371 人 (91.2%)	22 人 (5.4%)	14 人 (3.4%)	0 人 (0.0%)
家政学部	313 人 (100%)	291 人 (93.0%)	11 人 (3.5%)	10 人 (3.2%)	1 人 (0.3%)
現代社会学部	335 人 (100%)	298 人 (89.0%)	28 人 (8.4%)	8 人 (2.4%)	1 人 (0.3%)
法学部	132 人 (100%)	120 人 (90.9%)	7 人 (5.3%)	5 人 (3.8%)	0 人 (0.0%)
合計	1615 人 (100%)	1438 人 (89.0%)	115 人 (7.1%)	57 人 (3.5%)	5 人 (0.3%)
(備考) 留年者については、留学および休学に伴う事由が多い。また、中途退学者については、進路変更によるものが多い。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 開講されるすべての授業について、授業計画書（シラバス）を作成し、ホームページ上で公表している。 シラバスの作成にあたっては、12～1月頃に「シラバス作成要領（ガイドライン）」を全教員に配布・説明し、システムへの入力を行っている。その後、第三者チェック期間を経て、3 月中旬頃にホームページにて公表している。「シラバス作成要領（ガイドライン）」には、シラバスの概要や役割、各項目の説明と記入例を記載しており、執筆者ごとに内容に偏りや不足が生じないよう配慮している。 また、2025 年度よりシステムを更新し、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、学位授与方針との関連、課題に対するフィードバック、教員の実務経験の有無といった既存の項目に加えて、授業時間外学習の内容にかかる時間を記載する項目を追加するとともに、PBL（課題解決型学習）型科目やディベート・ディスカッションを中心とした科目等でルーブリックを導入し、成績評価の観点と基準を明確化し各科目の到達目標を可視化することで、これまで以上に学生が理解しやすいシラバス内容へと改善を図っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 単位認定にあたっては、あらかじめシラバスにおいてレポート、小テスト、授業への取組などの評価方法と観点を明示し、また複数の評価方法を用いる場合はその配分を記載するなど、評価基準を明らかにすることで適切な成績評価を行っている。 授業科目の成績評価は、各授業科目の目的に応じて多角的に判定し、上位より SS、S、A、B、C 及び D をもって評価し、C 以上を合格として当該授業科目の単位を認定する。

種別	成績評価	GP	判定の基準
合格	SS	5	授業科目の目標を完全に達成し、特に秀でた成果を挙げている。(試験やレポート等の評価に加え、授業への参加態度や授業時間外の学修成果が極めて高いと認められる。)
	S	4	授業科目の目標をほぼ完全に達成している。
	A	3	授業科目の目標を相応に達成している。
	B	2	授業科目の目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。
	C	1	授業科目の目標の最低限を満たしている。
	G	—	GP 評価できない科目の合格。
不合格	D	0	授業科目の目標の最低限を満たしていない。
単位認定 合格	N	—	他大学等で修得した単位。 本学入学前に修得した単位。

なお、学習成果のフィードバックの手段として、以下の通り GP 評価と 100 点法の評価を併記する場合がある。

- (1) GP 評価 5 の場合、95～100 点
- (2) GP 評価 4 の場合、90～94 点
- (3) GP 評価 3 の場合、80～89 点
- (4) GP 評価 2 の場合、70～79 点
- (5) GP 評価 1 の場合、60～69 点

また、入学前や他大学（留学含む）での履修単位や、外国語検定等のスコアの認定についても一定の基準や上限単位数を設けた上で、所定の手続きを経た申請に対し、学内会議での承認をもって単位認定を行っている。

科目ごとの成績評価は、各授業科目の目的に応じて多角的に判定し、6 段階の評価を行う。評価ごとにグレードポイント (GP) を求め、単位あたりの平均値を算出する GPA によって成績評価を行う。

【GP の算出方法】

成績評価	GP	判定の基準
SS	5	授業科目の目標を完全に達成し、特に秀でた成果を挙げている。(試験やレポート等の評価に加え、授業への参加態度や授業時間外の学修成果が極めて高いと認められる。)
S	4	授業科目の目標をほぼ完全に達成している。
A	3	授業科目の目標を相応に達成している。
B	2	授業科目の目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。
C	1	授業科目の目標の最低限を満たしている。
G	—	GP 評価できない科目の合格。
D	0	授業科目の目標の最低限を満たしていない。
N	—	他大学等で修得した単位。 本学入学前に修得した単位。

【GPA の算出方法】

$$\text{GPA} = \frac{[(\text{登録科目の単位数}) \times (\text{登録科目で得た GP})] \text{の総和}}{(\text{登録科目の単位数}) \text{の総和}}$$

全ての履修登録科目の成績評価について GPA を算出し、一定の基準を下回った学生にはアドバイザー教員との学修面談を課す等、学修状況の把握と改善を図っている。

GPA は成績優秀者の年間登録上限単位数の緩和措置や、教職課程等の履修制限、奨学金・留学等の学内選考、就職活動などにも活用しており、その重要性についてはオリエンテーション等で学生に説明している。

また、GPA制度の概要については『京都女子大学履修規則』に定められており、学生に対しては同規則及び履修方法についてまとめた冊子『単位修得要領』を入学時に配布するとともに、学修面談やオリエンテーション等でも周知を図っている。

大学全体の学位授与の方針は次の通りであり、これらの能力を修得したものに学位を授与することとしている。

(1) [知識・理解]

- ①専門分野について基礎的な知識と理解を有している。
- ②専門分野を超えた幅広い知識を有している。
- ③宗教に対する適切な知識と理解を有している。

(2) [汎用的スキル]

- ①日本語を正確に理解・運用することができる。
- ②日本語以外の言語を用いて、効果的なコミュニケーションができる。
- ③数量データを含む多様な情報を、目的に応じた方法で収集・分析・活用できる。

(3) [思考力・判断力]

- ①批判的・論理的にものごとを考えることができる。
- ②信頼できる情報にもとづき、合理的な判断をすることができる。

(4) [対話・協働性]

- ①様々な状況に応じ、適切な形で対話ができる。
- ②他の人と協働して目標の達成に取り組むことができる。

(5) [主体性]

- ①自ら課題を見つけ、積極的に行動できる。
- ②自らをケアし、持続的に課題に取り組むことができる。

なお、上記規程については大学ホームページで公表し、オリエンテーションで説明する等学生に周知を図っている。

卒業の認定にあたっては、必修科目、選択必修科目を含めた 132 単位を卒業要件単位としており、卒業年次の学年末に学生の卒業要件の充足状況についての資料を教務課にて作成する。当該資料をふまえて各学部教授会は審議し、審議結果について学長に報告し、最終的に学長が学位授与（卒業認定）を決定している。

なお、各科目に上記 (1) ～ (5) の能力育成が紐づけられており、単位を修得することによりこれらの能力を身に付けたものとして、学位授与（卒業認定）を行っている。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国文学科／ 日本語日本文学科	132 単位	有・無	年間 48 単位
	英文学科／ 英語文化コミュニケーション 学科	132 単位	有・無	年間 48 単位
	史学科／ 歴史学科	132 単位	有・無	年間 48 単位
発達教育学部	教育学科	132 単位	有・無	年間 48 単位
心理共生学部	心理共生学科	132 単位	有・無	年間 48 単位

家政学部	食物栄養学科	132 単位	有・無	年間 48 単位
	生活造形学科	132 単位	有・無	年間 48 単位
現代社会学部	現代社会学科	132 単位	有・無	年間 48 単位
法学部	法学科	132 単位	有・無	年間 48 単位
データサイエンス学部	データサイエンス学科	132 単位	有・無	年間 48 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.kyoto-wu.ac.jp/zaigaku/boogco000000qy8c-att/boogco000000qy9m.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.kyoto-wu.ac.jp/student/campus/index.html https://www.kyoto-wu.ac.jp/student/shisetsu/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	日本語 日本文学科	790,000 円	250,000 円	250,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円
		920,000 円	0 円	250,000 円	2 回生：教育充実費 250,000 円
		910,000 円	0 円	250,000 円	3 回生：教育充実費 250,000 円
		900,000 円	0 円	250,000 円	4 回生：教育充実費 250,000 円
	英語文化 コミュニケーション学科	810,000 円	250,000 円	250,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円
		940,000 円	0 円	250,000 円	2 回生：教育充実費 250,000 円
		930,000 円	0 円	250,000 円	3 回生：教育充実費 250,000 円
		920,000 円	0 円	250,000 円	4 回生：教育充実費 250,000 円
	歴史学科	790,000 円	250,000 円	250,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円
		920,000 円	0 円	250,000 円	2 回生：教育充実費 250,000 円
		910,000 円	0 円	250,000 円	3 回生：教育充実費 250,000 円
		900,000 円	0 円	250,000 円	4 回生：教育充実費 250,000 円
発達教育 学部	教育学科	900,000 円	250,000 円	265,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円、実験実習料 15,000 円
		1,040,000 円	0 円	265,000 円	2-3 回生：教育充実費 250,000 円、実験実習料 15,000 円
	教育学科 教育学専攻	980,000 円	0 円	250,000 円	4 回生：教育充実費 250,000 円
	教育学科 養護・福祉 教育学専攻	980,000 円	0 円	250,000 円	4 回生：教育充実費 250,000 円
	教育学科 音楽教育学専攻	1,140,000 円	0 円	250,000 円	4 回生：教育充実費 250,000 円
	児童学科	980,000 円	0 円	250,000 円	4 回生：教育充実費 250,000 円
	心理学科	980,000 円	0 円	250,000 円	4 回生：教育充実費 250,000 円
心理共生 学部	心理共生学科	840,000 円	250,000 円	250,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円
		1,010,000 円	0 円	250,000 円	2-3 回生：教育充実費 250,000 円
家政学部	食物栄養学科	957,000 円	250,000 円	285,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円、実験実習料 35,000 円
		1,057,000 円	0 円	285,000 円	2 回生：教育充実費 250,000 円、実験実習料 35,000 円
		1,020,000 円	0 円	283,000 円	3-4 回生：教育充実費 250,000 円、実験実習料 33,000 円
	生活造形学科	910,000 円	250,000 円	275,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円、実験実習料 25,000 円
		1,010,000 円	0 円	275,000 円	2 回生：教育充実費 250,000 円、実験実習料 25,000 円

		1,000,000 円	0 円	275,000 円	3-4 回生：教育充実費 250,000 円、実験実習料 25,000 円
現代社会 学部	現代社会学科	810,000 円	250,000 円	250,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円
		940,000 円	0 円	250,000 円	2 回生：教育充実費 250,000 円
		930,000 円	0 円	250,000 円	3-4 回生：教育充実費 250,000 円
法学部	法学科	790,000 円	250,000 円	250,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円
		898,000 円	0 円	250,000 円	2-3 回生：教育充実費 250,000 円
		880,000 円	0 円	250,000 円	4 回生：教育充実費 250,000 円
データ サイエンス 学部	データ サイエンス 学科	900,000 円	250,000 円	250,000 円	1 回生：教育充実費 250,000 円
		1,020,000 円	0 円	250,000 円	2-4 回生：教育充実費 250,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1. ポートフォリオや LMS を活用して学生の学修成果を把握し、学修面談や履修指導に活用する等、教員と職員が一体となった組織的な修学指導体制を構築している。 2. 全ての学生が安心して教育を受けられるよう、奨学金制度や障がい学生支援体制を整えている。 3. 学習スペースをキャンパス内に配置するとともに情報通信環境の整備を進め、学生が学びに取り組むための学習環境や仕組みを整えている。 4. 学生が円滑な大学生活を送ることができるよう、学年・クラスごとのアドバイザー教員を設定し、学習をはじめ様々な相談に応じる体制を整えている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりの適性や能力、希望に沿ったキャリア形成を実現するための支援を行う。 1. 体系的なキャリア教育プログラムを低年次より正課内に設定し、全学的なキャリア教育体制を構築している。 2. 各学科・専攻等との協力体制の強化を図り、それぞれの学生の特性やニーズに応じたキャリア形成のための相談体制を充実させ、就業力の向上に向けた各種支援プログラムや職業紹介を行っている。 3. 教育職員や公務員などに特化した専門的な支援体制の強化・充実を図っている。 4. 大学院生に対しては、大学院で修得した高度な知識、研究能力を活かして、社会に貢献できるように、個別の進路支援体制の充実を図っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 1. アドバイザー教員と学生支援関係部署（教務課、学生支援課、学生相談・障がい学生支援センター等）が、必要に応じて学生に関する情報を適切に共有し、連携した支援体制を構築している。具体的には、個別ケースごとの情報共有を通じて、修学面・生活面・心理面を含めた多面的な支援を行っている。 2. 学生の心身の健全な成長と自立を支援する観点から、クラブ活動等の課外活動への支援を行っている。これにより、対人関係の形成、ストレス発散、自己効力感の向上など、学生生活全体の充実を通じた心身の健康保持・増進を図っている。 3. 学生相談・障がい学生支援センターを設置し、センター内に心理的支援を行う学生相談室と、障がいのある学生の修学支援を担当する障がい学生支援室を配置している。また、健康診断の実施および随時受診可能な健康管理センターを設置し、学生の心身の健康維持・早期対応に取り組んでいる。 4. ハラスメントに関する相談体制を整備するとともに、研修や啓発活動を通じて未然防止に取り組み、安心して学修・生活できる環境の整備を推進している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

【ホームページ】

大学各種情報公表

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/jouhou/index.html>

留学・国際交流について

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/international/index.html>

公開講座について

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/shakai/koza/index.html>

リカレント教育について

<http://rccp.kyoto-wu.ac.jp/rccp/recurrent/>

研究所等について

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/laboratory/index.html>

産官学連携について

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/shakai/sangaku/index.html>

<https://rccp.kyoto-wu.ac.jp/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F126310107519
学校名（〇〇大学 等）	京都女子大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人京都女子学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1,261人（781）人	1,314人（786）人	1,314人（786）人
内 訳	第Ⅰ区分	325人	307人	
	（うち多子世帯）	（61人）	（54人）	
	第Ⅱ区分	147人	151人	
	（うち多子世帯）	（15人）	（18人）	
	第Ⅲ区分	94人	95人	
	（うち多子世帯）	（27人）	（24人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	130人	130人	
	区分外（多子世帯）	548人	560人	
家計急変による 支援対象者（年間）				12人（0）人
合計（年間）				1,326人（786）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	17人	人	人
計	26人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	31人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	215人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	215人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。